

II 油糧種子

1 大豆

(1)国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2018/19 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・前月に比べ、ブラジルでの単収上昇により上方修正された。

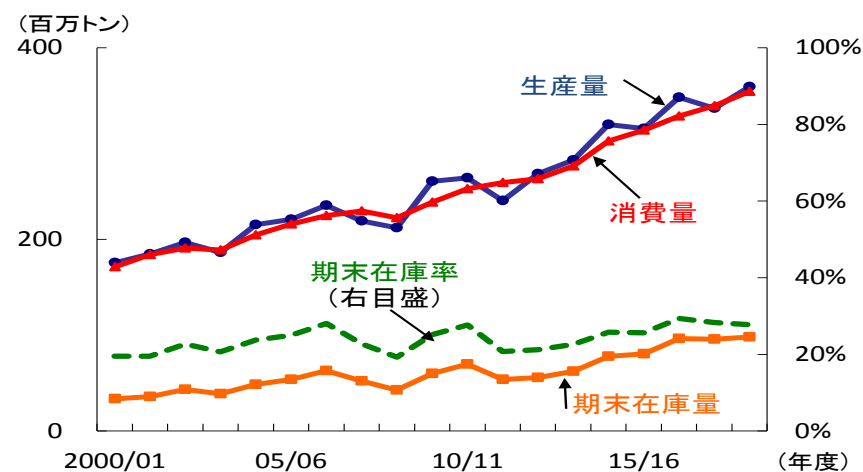
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、中国、アルゼンチンの搾油需要低下により下方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・前月に比べ、アメリカの中国向け輸出量の減少見込みにより下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

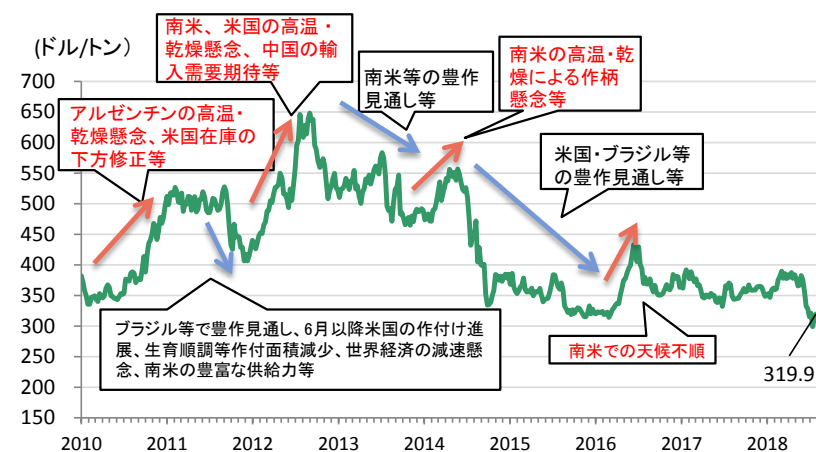


資料：USDA「PS&D」（2018.7.12）をもとに農林水産省で作成。

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	348.1	336.7	359.5	4.3	6.8
消費量	328.9	339.4	354.3	▲ 3.4	4.4
うち搾油用	287.4	296.3	309.3	▲ 4.2	4.4
輸出量	147.4	152.2	157.3	▲ 5.1	3.3
期末在庫量	96.7	96.0	98.3	11.3	2.3
期末在庫率	29.4%	28.3%	27.7%	3.4	▲ 0.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（12 July 2018）



注：シカゴ商品取引所による2018年7月27日までの毎週金曜日の期近価格である。

(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によると、7月22日時点における開花状況は78%で、前年度及び過去5年平均より早く、作柄評価も前年を上回っている。今後、着莢期を迎える。

【需給状況】畜産における大豆粕需要の高まりを反映して、消費量は前月から上方修正された。

【貿易情報・その他】USDA 予測では、主要輸出先国である中国が、7月から米国産大豆に25%の関税を課したことから、前月から輸出量が下方修正されている。

一方、USDA が公表する輸出検証高（輸出予定の検査済み穀物数量）によると、中国以外向けの輸出検証高は増加している。

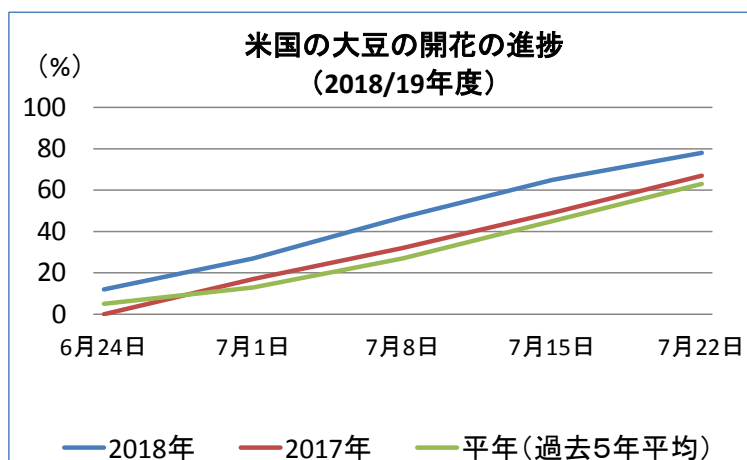
7月24日、USDA は、大豆をはじめとうもろこし、小麦、豚肉等の農産物について、中国等の関税賦課の影響緩和措置として120億ドルを上限とする農家支援策を行うことを発表したことから、今後、支援策の具体的な内容や影響について注視していく必要がある。

大豆－米国

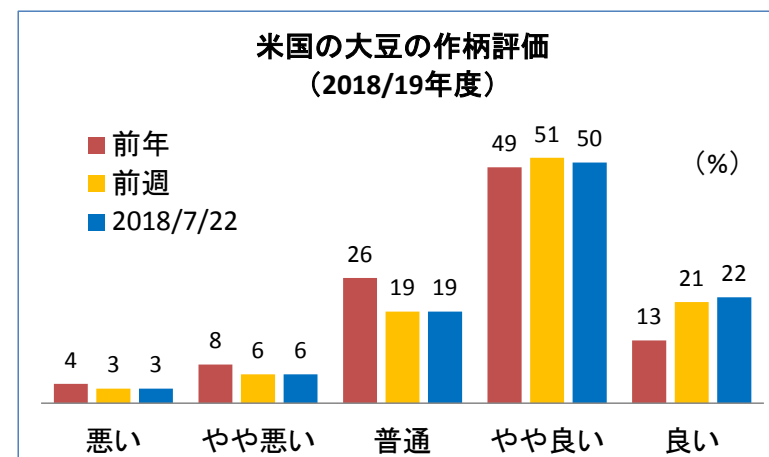
(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	116.9	119.5	117.3	0.8	▲ 1.9
消費量	55.7	58.9	59.3	1.2	0.7
うち搾油用	51.7	55.3	55.7	1.2	0.7
輸 出 量	59.0	56.7	55.5	▲ 6.8	▲ 2.2
輸 入 量	0.6	0.6	0.7	-	13.3
期末在庫量	8.2	12.6	15.8	5.3	24.8
期末在庫率	7.2%	10.9%	13.7%	5.0%	2.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	33.47	36.23	35.96	0.27	▲ 0.7
単収(t/ha)	3.49	3.30	3.26	-	▲ 1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2018)



資料：USDA 「Crop progress」(2018.07.23)



資料：USDA 「Crop progress」(2018.07.23)

< ブラジル >

【生育・生産状況】2017/18年度については、ブラジル食料供給公社（CONAB）によると、生産量は、118.9百万トンの見込み。

2018/19年度については、米国農務省（USDA）によると、中国の米国産大豆への課税措置を受け、ブラジル産大豆の需要が高まり、農家の作付け意欲が増すと予測されるため、更なる増産が見込まれる。

【需要状況】USDAによると、消費量は、搾油用需要の低下により、前月より下方修正された。

【貿易情報・その他】3月以降、中国の旺盛は需要に下支えされ輸出量は増加しており、1月から6月までの合計は約35.9百万トンと、中国向けだけで平年の年間輸出量の約半分に達している。

大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	114.6	119.5	120.5 (119.0)	2.5	0.8	
消費量	43.8	46.5	46.3 (…)	▲ 0.5	▲ 0.6	
うち搾油用	40.4	43.0	42.7 (43.7)	▲ 0.5	▲ 0.7	
輸 出 量	63.1	74.7	75.0 (73.7)	2.1	0.5	
輸 入 量	0.3	0.2	0.4 (…)	0.2	87.0	
期末在庫量	26.5	25.0	24.7 (30.2)	1.7	▲ 1.4	
期末在庫率	24.7%	20.6%	20.3%	1.1	▲ 0.3	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	33.90	35.10	37.50 (36.35)	1.00	6.8	
単収(t/ha)	3.38	3.39	3.21 (3.27)	▲ 0.02	▲ 5.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(12 July 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(6 July 2018)

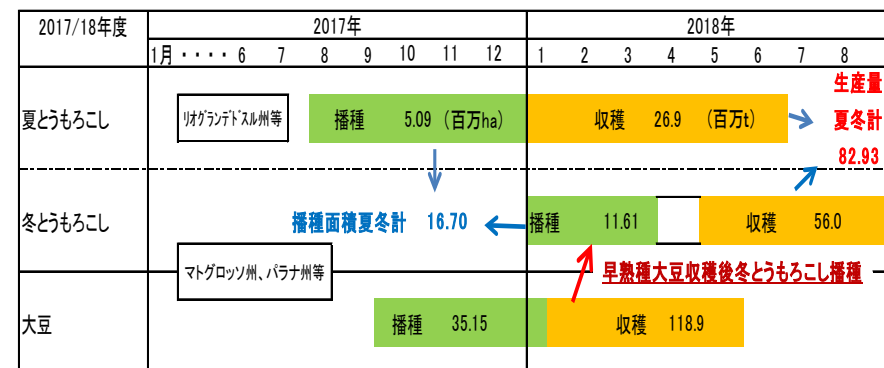
ブラジル大豆の主な輸出先

単位：千トン

月	中国	オランダ	ロシア	イラン	スペイン
1月	1,342	65	60	59	27
2月	2,144	305	102	100	61
3月	6,938	274	195	173	164
4月	7,526	306	245	237	224
5月	9,763	407	309	274	207
6月	8,232	351	263	233	192

出典：ブラジル商工サービス省（Ministério da Indústria, Comércio Exterior e Serviços）

ブラジルのクロープカレンダー(2017/18年度)(中部から南部)



資料：CONAB 2018年7月

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省（AAFC）によると、小麦と比べて収益性が低いこと、西部で乾燥が広がっていること、国際価格が下落傾向であること等により、2018/19年度の作付面積は前年度比13%減の2.56百万ヘクタールの見込み。

【需要状況】USDAによると、消費量は、前年度並みの見通し。

【貿易情報・その他】AAFCによると、輸出量は輸出先が多様化していることから、近年、増加傾向にあり、5.3百万トンの見込みである。一方、USDAによると、前月と比べて、作付面積の減少から輸出量は下方修正された。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	6.6	8.0	7.3 (7.1)	▲ 0.5	▲ 8.8
消費量	2.5	2.6	2.6 (2.4)	-	-
うち搾油用	2.0	2.0	2.0 (・・・)	-	-
輸 出 量	4.6	5.5	5.5 (5.3)	▲ 0.3	-
輸 入 量	0.5	0.5	0.6 (0.4)	-	20.8
期末在庫量	0.3	0.6	0.4 (0.8)	-	▲ 38.8
期末在庫率	3.9%	7.8%	4.8% (10.4%)	-	▲ 3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.23	2.90	2.55 (2.54)	▲ 0.19	▲ 12.1
単収(t/ha)	2.96	2.76	2.86 (2.79)	0.01	3.6

資料：USDA「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、「PS&D」(12 July 2018)
AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(19 July 2018)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】ブエノスアイレス穀物取引所によると、今年2月の干ばつの影響で、2017/18年度産は、大幅減産となり、36百万トンの見込み。

【需要状況】米国農務省（USDA）によると、2017/18年度は、前年度と比較して、生産量が減少し消費量を下回る見込みであり、輸入が必要な状況である。オイルワールドによると、今年1月から6月までの輸入量は、既に5百万トンに達しており、中国について、世界第2位の輸入国となる見込み。主な輸入先は、パラグアイ、米国である。

【貿易情報・その他】アルゼンチンは、大豆を搾油し、副産物の大豆粕を輸出している。オイルワールドによると、中国による米国産大豆への課税措置のため、アルゼンチン産大豆及び大豆加工品の需要が増すと見られる。

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.0	37.0	57.0 (53.0)	1.0	54.1
消費量	47.8	43.8	48.0 (・・・)	▲ 1.0	9.5
うち搾油用	43.3	39.2	43.0 (・・・)	▲ 1.0	9.8
輸 出 量	7.0	3.1	8.0 (・・・)	-	158.1
輸 入 量	1.7	3.8	2.3 (・・・)	0.4	▲ 40.0
期末在庫量	35.5	29.4	32.7 (28.0)	3.6	11.2
期末在庫率	64.7%	62.6%	58.4% (・・・)	0.07	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	17.40	16.80	19.00 (17.80)	0.30	13.1
単収(t/ha)	3.15	2.20	3.00 (2.98)	0.01	36.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(12 July 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(6 July 2018)

< 中国 >

【生産・生育状況】主産地の東北地方では6月の降雨が平年より多く、土壌水分が良好であった。米国農務省（USDA）によると、生産量は作付面積拡大のため、前月より上方修正の14.5百万トンの見込み。

【需要状況】USDAによると、消費量は搾油量の減少予測から、前月より4.8百万トン下方修正の113.6百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによると、米国産大豆への25%の関税賦課の影響を考慮し、輸入量は前月より8百万トン下方修正の95.0百万トンの見通し。

一方、中国政府は、従来から、大豆作付けの奨励など、国内生産を増やす政策を行っているが、これらに加え、7月からは、インド、韓国、バングラデシュ、ラオス、スリランカからの大豆輸入について、関税を3%から無税に引き下げ、旺盛な国内需要に対応していると見られる。

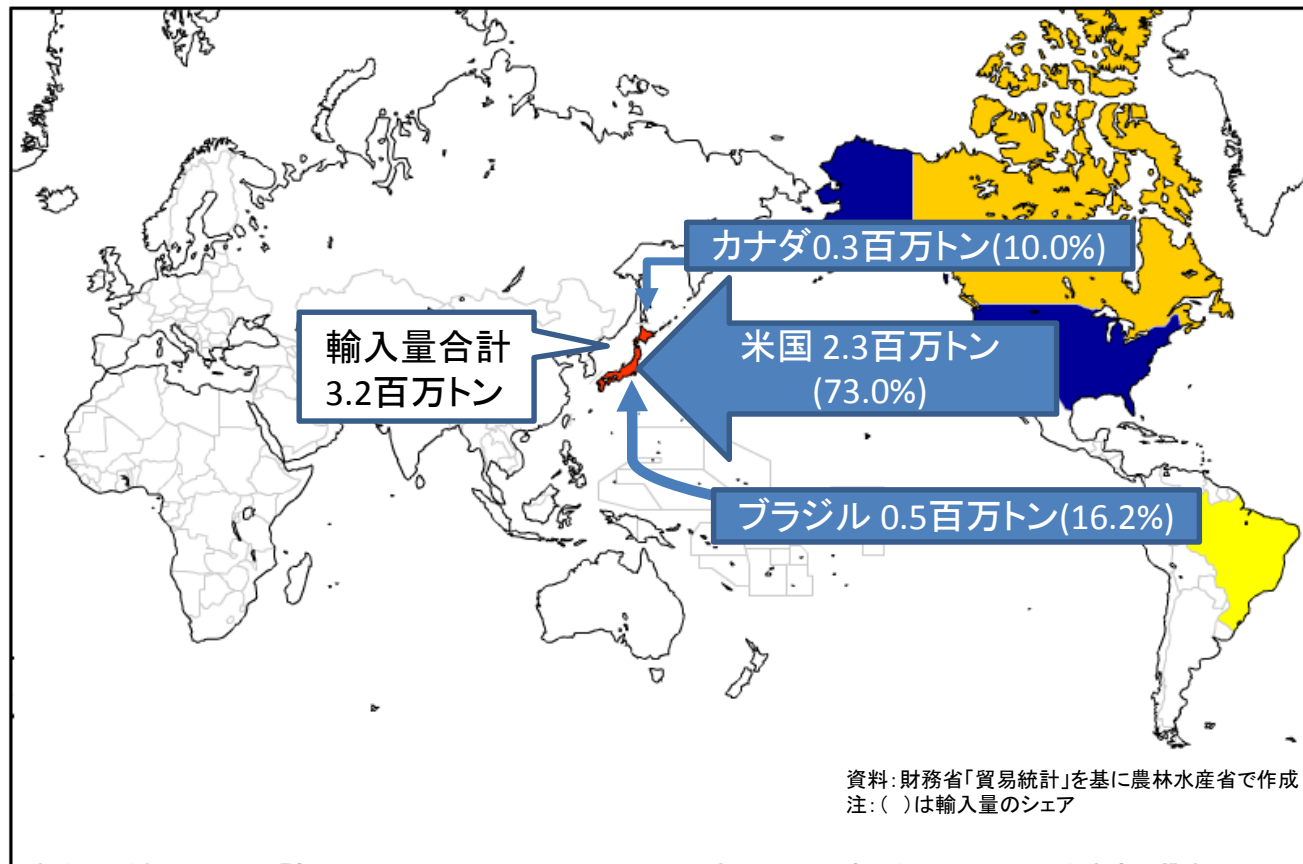
大豆－中国

(単位:百万トン)

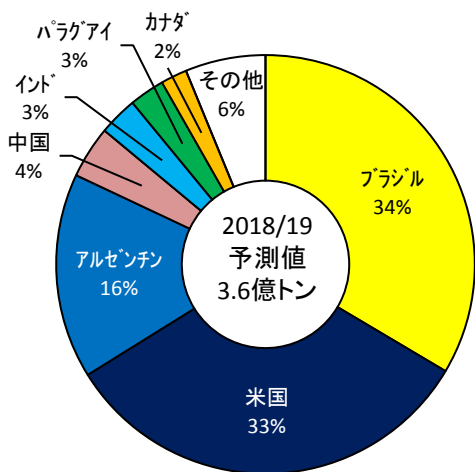
年 度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19			
			予測値、()はOil.W	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	12.9	14.2	14.5 (14.3)	0.4	2.1	
消費量	102.8	108.0	113.6 (…)	▲ 4.8	5.2	
うち搾油用	88.0	92.0	96.5 (…)	▲ 5.5	4.9	
輸 出 量	0.1	0.2	0.2 (…)	-	-	
輸 入 量	93.5	97.0	95.0 (…)	▲ 8.0	▲ 2.1	
期末在庫量	20.4	23.4	19.2 (…)	-	▲ 18.1	
期末在庫率	19.8%	21.7%	16.9% (…)	0.7	▲ 4.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	7.20	7.85	8.10 (7.30)	0.25	3.2	
単収(t/ha)	1.79	1.81	1.79 (1.96)	▲ 0.01	▲ 1.1	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(12 July 2018)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(6 July 2018)

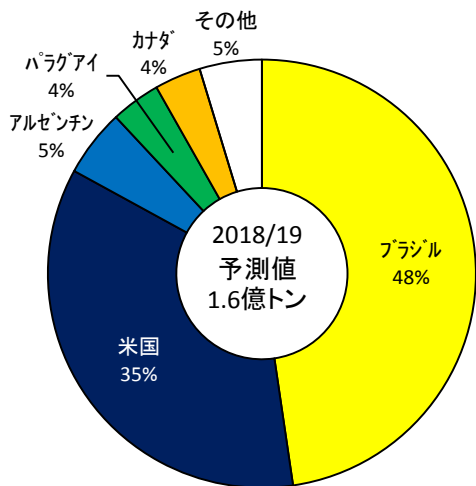
日本の国別大豆輸入量(2017年)



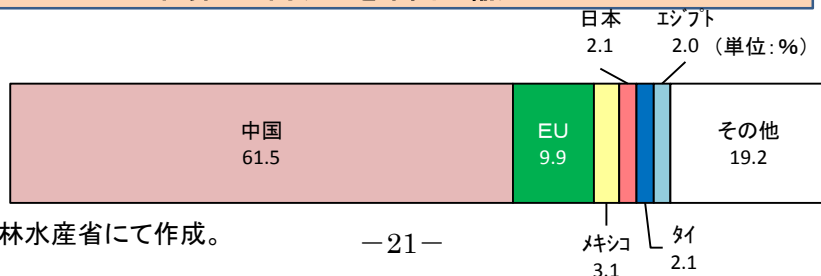
世界の大豆生産量



世界の大豆輸出量



<参考>世界の大豆輸入国(2018/19)
-世界の6割以上を中国が輸入-



日本の大豆生産量
 2015年:0.24百万トン
 2016年:0.24百万トン
 2017年:0.25百万トン
 (資料:農林水産統計)

【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC 等) の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2018 年 7 月下旬までに 発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1487>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1490>

「World Agricultural Production」

<http://usda.mannlib.cornell.edu/MannUsda/viewDocumentInfo.do?documentID=1860>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。

- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。

- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場 (平成 30 年 5 月中において適用される) 等の換算レートを用いています。

- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads?tabName=default>

○ 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。

○ 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート（Monthly Report）」）を併記願います。

○ 本文中の略称については以下の通りです。

FAO	国連食糧農業機関
IGC	国際穀物理事会
USDA	米国農務省
AAFC	カナダ農務農産食品省
ABARES	豪州農業資源経済科学局
CONAB	ブラジル食料供給公社

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

○ 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

○ 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室
	TEL：03-3502-8111 (内線 3805)
	FAX：03-6744-2396